



発行所 国鉄労働組合盛岡地方本部
発行 齋藤庄司
編集者 中堤聡司
TEL 019-622-5021
メールアドレス numori@poem.ocn.ne.jp

2011.10.10 第1438号

拡大キャッチコピー

「新しい仲間づくりを皆の力で」
「一緒に解消しませんか、あなたの疑問。加入ってます」

第5回地方本部組織拡大対策会議

職場の中心軸になり拡大行動を

水戸地本から4人招き経験交流

「第80回定期全国大会」で国労は、国鉄闘争の終結とJRにおける産別労働組合としての第一歩を踏み出すことを全体で確認した。今後の闘いの大きな柱は、「安全・安定輸送」の確立に向け、職場における労働条件改善と組織強化・拡大にあることは論を俟たない。地方本部はこうした状況の中で「第5回組織拡大対策会議」を開催し、水戸地方本部を招く中で各級機関書記長を中心に一泊で議論を行った。

職場実態を見た時、国鉄「分割・民営化」以降行われた偏頗な労務政策により生じた歪みの修正と次世代への「技術継承」は喫緊の課題となっている。国労を取り巻く情勢が大きく変化した今日、反転攻勢に向け、全組合員が団結して頑張ることを確認した会議となった。

職場・分会集ても意思統一

「第5回組織拡大対策会議」は9月11日・12日の2日間、盛岡市つなぎ温泉「清温」で開催された。各級機関の書記長を中心に35人が参加した。今春にJR東日本会社へ入社して国労に加入した中村賢太郎氏をはじめ、水戸地方本部から4人を会議へ招き、組織拡大の取り組みについて経験交流も行った。



国労加入の経緯などを述べる中村さん(水戸地本)

最初に、齋藤委員長が「厳しい攻撃の中でも多くの組合員が歯を食いしばり奮闘してきた結果、全国的にも高い組織率にある。この組織状況を背景に、全組合員が拡大に向けた一歩前へ出た取り組み」と、取り組み強化を訴えた。来賓の東日本本部・松井書記長はJR東日本本社を巡る情勢を中心に報告し、「組織拡大は労使関係正常化の延長線上にある。健全かつ正常な労使関係構築に向け、東日本本部として引き続き取り組みを強めていきたい」と挨拶。また、水戸地本・大和田亨委員長は「一括和解を受けて、新採の国労加入の取り組みを開始。初めは議論先行に

組合員と家族皆で楽しい日
盛岡地区協運動会・110人が参加



玉入れ競技に熱中の参加者

10月1日、北厨川小学校体育館で「盛岡地区協第34回運動会」が、組合員・家族110人の参加で開催されました。開会式では熊谷常任委員長の挨拶と3人の来賓の方からお祝いの言葉をいただきました。昨年優勝の黄色チーム代表「湯沢英君」の力強い選手宣誓、準備運動で体をほぐし競技へと進みました。競技は赤(駅連・書記労)・白(施設)・緑(電気・運転)・黄色(運輸・貨物)の4チームに分かれ、団体競技と

終始したが、目の前で新採を他方組へ持つて行かれたことに組合員が奮起。その後の拡大につながった」とこの間の取り組みを報告。中村氏は自身の加入経緯を中心に「仕事や住宅等における関わりの中で国労組合員の人間性に魅かれた。他方組組合員をも含めた、一人ひとりを大切にすることが国労だと感じている。仕事を通じて国労組合員の姿勢を周りに見せていく中で今後の拡大につなげたい」と話した。菊池組織部長による「①

「もう一歩前へ」がいま求められている②機関活動の活性化に向け、闘争指示第34号の取り組み強化を③国労運動に自信と確信を」との提起を受けて4分散会に分かれ、若手役員を座長に水戸地本の仲間を交えて議論。2日目は分散会報告から始まり、特徴的な点として「個人的な繋がりはあるものの、次の展開に結び付いていない」「我々自身が青年の感性に対応できているのか、振り返りも重要」との課題が求められる一方で、「技術継承・人手不足が職場の課題。仕事や住宅等における関わりの中で国労組合員の人間性に魅かれた。他方組組合員をも含めた、一人ひとりを大切にすることが国労だと感じている。仕事を通じて国労組合員の姿勢を周りに見せていく中で今後の拡大につなげたい」と話した。菊池組織部長による「①

く中で、自分も積極的に取り組むたい」「国労運動に自信と確信を改めて感じた。仕事だけでなく、趣味等も通じてやれることをやっていきたい」との意見が出された。水戸地本・塙正人副委員長と志賀正一氏から感想を述べた。また、「拡大のキーワードは仕事にある。職場の中心軸となり、課題・問題を改善する中から国労の姿を見せていくことが重要。そのためにも組合員の集まる場作りが求められており、分会活動の活性化に向け、系統別職場集会・分会集会の取り組み強化を継続していく」とのまとめを全体で確認し終了した。職場における変化が分散会で数多く報告された。今日までの闘いが作り出した到達点を確認し、要求の多数派から組織の多数派に向け、全組合員が奮闘しよう。

当面の主な日程
10月16日・17日(浅草) 第67回定期地方大会
10月22日・23日(松島) 第25回東北協議会総会及び第8回東北協議会活動家交流集会

10月29日(盛岡) 地方本部出向役員会及び第5回総会
11月5日(盛岡) 第33回盛岡支部定期大会
11月13日(青森) 第54回青森支部定期大会

伊藤淳さん2度目の優勝
(盛岡運輸区分会)
第16回地方本部ゴルフ大会

16回目の地方本部ゴルフ大会が9月27日安比高原ゴルフクラブで74人が参加し開催された。優勝は2度目となる伊藤淳さんとなった。当日は好天に恵まれ、8時過ぎから開会式を簡単に済ませ、岩手山・八幡平・竜ヶ森・十和田の4コースに分かれ、8時30分から順次スタート。昼食後、後半のコースをまわり15時過ぎには全員のプレーが終了。引き続き表彰・閉会式へ、齋藤委員長挨拶に続き、順位発表と表彰に移り用意された景品が組合員・来賓の方に手渡された。大会には、岩手県労働者福祉協議会、東北労働金庫、全労済岩手県本部、連合岩手、ハピネス共済会、(有)きょうさいライフ、国労会館歯科、ばんから屋など多くの団体や個人の皆さんからの参加や景品の提供をうけた。第3位までの成績は次の通り。
優勝 伊藤 淳 (盛岡運輸区分会)
準優勝 藤田 勇人 (青森施設分会)
第3位 佐々木睦美 (北上工務分会)

有志6人「NRUMORIオカ」
安比リレーマラソンに参加

9月11日に18回目の2011年安比リレーマラソン大会(42・195キロ)が開催された。大会には、例年11月開催の国労東日本本部マラソン大会に参加しているメンバー有志が中心に練習を兼ねて吉田雅美(盛岡電気)さんをキャプテンに黒井恒夫・高橋幸治(盛岡施設)、花田長蔵(北上施設)、佐藤隆文(一関工務)、佐々木義仁(青森運輸区)さんの6人が、「NRUMORIオカ」のチーム名で参加し、1周2キロを21周プラス195メートルを4人から10人以内でのルールの中、チームは、1人3・4周を担当しタスキをつないでゴール3時間18分16秒5で318チーム中、133位となった。お疲れさまでした。

ていこう
昨年、55歳になり賃金が10%カットされた。しかし、仕事は増えた。みどりの窓口に入れられ、切符を売られるようになった。55歳になり、近くが見えづらくなり時刻表の小さな数字がますます見えなくなる。今年56歳になりますます目が見えなくなってきた。1年かけて覚えたマルス操作も10日も離れると忘れてしまいい、周りの人に教えてもらいながら仕事をこなす毎日だ。昨年入った新人社員にはとくに追い越され、教えられる毎日だ。若い時は、日を追うごとに身についていったことが今は日を追うことにほとんど忘れられて行く、全く逆だ。エルダー制度ができ65歳まで働き続けている人を見ると頭が下がる。私が入社した頃は55歳は定年だった。今、自分がその年齢になってみて、55歳定年という数字に納得している。気力、体力、視力、聴力、それをとつても節目の年だ。55歳あるいは60歳で納得できる年金支給が行えれば、退職のんびり好きなことをしたいと思っている。しかし、働かないと食べていけないから働かざるを得ない。年金制度が私達の思うように改正されれば、55歳あるいは60歳で退職しあらたな雇用が生まれると思う。同世代の人たちは皆同じ様に口にしてはいる。残るは国の判断だ。3・11の震災では未だ瓦礫の山がマスコミで放映されている。集まった義援金も配分されず基準が難しいなどと言っている。とりあえず一定額を全員に配分すればいいのに国民は皆言っているのに、国が判断できない。全てにおいて今の制度でやろうとしている。大変な時は大胆な決断が必要だ(京)

お疲れさまでした。
お疲れさまでした。
お疲れさまでした。